

分野：②

シイタケのホダ木起こし、水草抜き、杭打ち

環境アドバイザー

足立 圭子

対象 おおたかの森トラスト・こどもエコクラブ(30人)

所要時間



4時間

場所 所沢市北岩岡 46-1 森の再生地

実施時期

令和2年8月16日

概要

雑木林の生態系を豊かにする体験を通して、野生の生きものの大切さや生物の多様性を学び、皆で力を合わせ自然との共生できる街づくりなどを解説

プログラムの ねらい

森の再生地は、12年前は産業廃棄物処理場だったが、市民が買い取り自然を再生している。どのように自然を再生しているのか、これからどうしたらもっと豊かな場所になるのか、生きものの観察をしながら考え話し合う。
生きものが繋がっていることに気づいて欲しい。

プログラムの内容

1 カブトムシやクワガタが棲む森へ

春に駒打ちをしたホダ木を運び出し、木陰に組み並べる。
ホダ木は重く、低学年や幼稚園児では持てないので協力して一輪車などに載せて運び出す。
木陰にホダ木を組む活動も協力することを求められる。

2 池の水草を抜く (50分)

池の水面に水草が覆ってしまうとシオカラトンボなどが産卵しなくなるので、池に入り水草を抜きます。
滑らないようにお互いに周りを注意して草を抜く。
抜いた草を陸に上げる時も、声を掛ながら行うことがとても大切です。



受講者の反応

暑い日でしたが、風が通る木陰で水分休憩を多くとりました。
生きもの達のつながりに気がついてもらえるよう、小さな子供たちにも分かりやすい言葉を選んで伝えました。休憩時に目の前を「見たこともないトンボが」との声に、図鑑を持ちだして各自がページをめくって探している様子に大人達も感心していました。屋外でも、スマホよりも図鑑調べは好奇心が湧くようです。皆で力を合わせた活動は達成感が素晴らしいとのことでした。